

コース4 とやさん 鳥屋山

リーダー CL H.M SL K.S

実施日 令和6年4月20日(土)

天候 曇りのち晴れ

グレード B

参加者 13人(男性1人 女性12人)

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
新津駅		6:00	新津駅11名 五泉駅2名 乗車
荻野駅	7:54	8:05	登山届を出し、駅の方のお話を聞く
漆窪登山口	8:35	8:40	道路から登山道へ
カタクリ群生地	8:55	9:00	群生地沿いで花をみながらゆっくり歩く
第1見晴台	9:30	9:40	見晴台までの急な階段を昇る
第2見晴台	10:10	10:20	アップダウンの尾根道を行く。
山頂	10:40	11:50	記念撮影、昼食休憩
第2見晴台	12:05	12:15	飯豊山がきれいに見える
第1見晴台	12:40	12:50	天気が良くなり、花を眺めながら下山
荻野駅	14:20	15:20	電車が強風のため12分遅れで出発
新津駅	17:11		遅れを取り戻しほぼ時間通りに新津駅へ

山行等概要(幹事のコメント)

- 新入会員3名の参加あり。
- 磐越西線2両編成の後方の車両に集い、朝早いせいかほぼ貸切状態。車窓から新緑の阿賀野川沿線を眺める。
- 荻野駅で鳥屋山のカタクリの開花状況を聞く。先週の山開きの時は満開だったが、まだ咲いているとのこと。去年の山開きの記念バッジを頂き、山頂のトイレの話聞く。
- 愛鳥家の方から、小鳥の鳴き声や名前をレクチャーして頂き、バードウォッチング。
- 駅から真っ直ぐ道路を歩き、阿賀川の橋を渡り、登山口に向かう。
- 登山口から登って行くと、ちらほらカタクリを見かける。終わっている花も多いが、徐々に咲いているものも多くなって来る。
- 急な長い階段を上り、第1見晴台に到着。天気が良くなり青空が見え始める。
- タムシバやオオカメノキの白い花が美しい尾根道を歩く。風が強く寒い所もあったが、アッ



プダウンを繰り返しながら、第2見晴台へ向かう。多少息が上がるも、遅れる人もなく予定時間より早いペース。



・山頂の標識の前に「便所」の看板を発見し、山頂に到着。晴れだが黄砂のせいか、眺望は今いち。山頂の標識の前で記念撮影、今日の日付がしっかり掲げられていてびっくり。

・地元の方の話によると、毎日日付を替えに登っている人がいるとのこと。別の軽沢登山口から、冬も毎日登頂し日付を替えていると伺う。

・山開きの次週のせいか、登山者が少なく、山頂でゆっくり昼食。

・ブルーシートに囲まれた簡易トイレで事件発生。

「誰もいないよ」の声に、「入ってます」の応酬。入口も分かりづらく、入り方や使用後スコップで落ち葉をかける等レクチャーに興味深々。

・天気が回復し、見通しがよくなり第2見晴台ではきれいに飯豊山が見える。

・暖かくなったせいか、下りでは朝よりたくさんカタクリの花をみる。

・皆さん健脚で、余裕をもって荻野駅到着。

・不慣れな幹事でしたが、女子会に黒1点で参加してくれたSLや皆様のご協力が無事山行をおえることができました。ありがとうございました。



鳥屋山 山行に参加して

1799 K.S

何年かぶりに古い友人に会うような懐かしい気分で前日からワクワクでした。

当日は私の一番苦手な朝を何とかクリアして電車に駆け込みました。土曜日の早朝のせいか貸し切りのような車内で、ゆったりとした時間を荻野駅まで2時間程過ごし、話しに花が咲きました。“サー登るぞ”と席を立てて電車を降りる時、まるでバスのような切符の投入口にローカル路線を実感しました。駅員さんより「今年ではないですが」と2023年山開き記念のバッジを頂きました。いい事有るかなー。

駅から登山口までの30分程の長いアスファルト道路、車の通りも少なくアツという間に登山口、以前は田植えが行われていたであろう荒れた乾田に野蒜が一面青緑色に風に揺れて爽やか、今日1日の山行を占うようでした。



登山口よりのコンクリート道が終わりいよいよ登り始めると、カタクリの花、薄紫のスミ

し、鳥の声、しっとりとした落ち葉を踏みしめる靴音、もちろん私達のにぎやかな声。暫く緩やかな上り坂を進むと開けた場所にカタクリの群生地が現れ、少し盛りを過ぎ色あせた花もありましたが思わず足も止まりました。

登山道は 2 度車道を横切るとこれからが本番、長く急な階段の続く登りに入りました。下ばかり見て階段を一步一步登ってふと見上げると、桜はもう葉桜になり新緑に溶け込んでいました。代わりにタムシバ、オオカメノキの白い花があちらこちら満開、中でもタムシバは木立の中に白い水おしろいを塗ったかのような艶やかな花びらが目に飛び込んできました。穏やかな日差しに揺れ、とっても印象的でした。

強風が吹いて思わず寒く感じたり窪みに差し掛かると暖かくなったりと山の危うさを感じながら第一見晴台、第二見晴台（大夫岳）と進み、休憩と素晴らしい展望を楽しみました。

途中弘法清水を横目に見ていよいよ山頂です。鳥屋山の看板をバックに定例の記念写真を撮影、山頂からの大パノラマと会津の名峰に浸り、順調な登山で時間に余裕が出来、少し早目の少し長めの昼食タイム、日差しも軟らかく体力も戻りました。

それからそれから、駅員さんの説明に有った山頂の簡易トイレは目から鱗でした。ブルーシートと 2 本の太い丸太+スコップで造られていて、尚且つトイレへの入り口がユニークで楽しめました。地域の人々に愛され大切にされているお山だと思いました。勿論、私も心置きなく使わせていただきました。

17 年ぶりに再会した山、思い出せず初めて感が強かったですが、計画・引率して下さったリーダー、サブリーダー、ご一緒したクラブの皆さん、本当に楽しい一日を有難うございました。

